

令和 7 年度 彦根市文化観光推進協議会
会議録

令和7年度 彦根市文化観光推進協議会

第1 開催日時 令和8年3月30日(月) 午後2時00分から午後3時30分まで

第2 開催場所 彦根市役所 5階 第1委員会室

第3 出席者 出席委員

滋賀大学 産学公連携推進機構 特任教授	上田 雄三郎
滋賀県立大学 地域共生センター 特任講師	上田 洋平
彦根観光協会 専務理事	安居 庄二
ひこね文化デザインフォーラム 理事長	戸所 岩雄
彦根商工会議所 副会頭	上田 健一郎
彦根市観光文化戦略部長	山岸 将郎
彦根市都市政策部長	古川 雅之
彦根市建設部長	關谷 真治
彦根市教育委員会教育部長	小島 久喜

(欠席委員)

彦根城運営管理センター 所長	宮川 敏明
----------------	-------

◇事務局(市関係所属)

観光文化戦略部文化財課長	井伊 岳夫
彦根城博物館副館長	渡辺 恒一
彦根城博物館管理課長	都築 養子
観光文化戦略部観光交流課課長	堀部 圭一
観光文化戦略部観光交流課課長補佐	山本 武

第4 議題

- 1 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について
- 2 評価について

第5 会議資料

- 資料1 彦根市文化観光推進協議会設置要綱・会議公開要領・委員名簿
- 資料2 彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画_概要版
- 資料3 彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画
- 資料4 計画目標の達成状況
- 資料5 地域文化観光推進事業の進捗状況
- 資料6 観光客の動向について

会議録

1 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

◆資料 1～6 に基づき事務局から説明

○安居庄二委員

市内宿泊者数が前年を下回った要因に、国スポ等で宿泊施設がかなり押さえられていたことが影響しているのではないかと。

○事務局（観光交流課山本）

国スポ等が直接影響しているとは考えていない。開催時期が冬ならば増えているかと思うが。

○安居庄二委員

滋賀県内の宿泊施設が国スポの関係で予約が取れないあるいは価格が上がっているなどが原因で、三重や奈良にお客が流れたのではないかと。

○事務局（堀部次長）

一定、宿泊施設で押さえておられたことは、影響していると考えている。

○上田健一郎委員

旅行会社に聞くと、大阪・関西万博にバスが取られて、滋賀県への送客が困難と聞いた。そのあたりの影響は？

○事務局（堀部次長）

団体で来られる場合はバスを使用することから、BVB でも影響はあったとお聞きしている。

○上田健一郎委員

彦根城博物館のミュージアムショップがリニューアルオープンしたが、その実績は。

○事務局（彦根城博物館都築課長）

令和 7 年 3 月 20 日にリニューアルオープンし、明るく入りやすい雰囲気づくりに努めた。売り上げも想定以上で、4 月は前年度比 3.6～4.6 倍となっていて、秋も好調。令和 7 年の実績だと年間で 2,300 万円程度になっている。来館者数は前半前年比 95%だったが、来ていただいた方に気に入っていただいき、購買につながっていると感じている。ターゲットを、彦根城をきっかけに来られる方向け、博物館を目的に来られる方にはここでしか買えないもの、価格設定を買いやすいものを用意してお土産として、その 3 つのコンセプトで、研究しながら販売している。

○上田洋平委員

外国人の国・地域の内訳とどういう交通手段で来られているのか。やはり JR か。

○事務局（観光交流課堀部課長）

外国人観光客はアジア圏中心、特に台湾。中国は 11 月以降、団体は減少傾向。個人はまだある。これから影響が出てくるか注視する。

○事務局（観光文化戦略部山岸部長）

コロナ禍以降、団体旅行から個人旅行へ傾向が推移している。他市の状況を見ながら観光施策の在り方について先進事例を研究していきたい。

○上田洋平委員

参考までに申し上げると、熊川宿は今津から車でしか行けない。来訪者の国籍は多い順に米国・香港・豪州・台湾・ヨーロッパの順だそうで、元々はスーパーマニアックな方から始まり、次はライター・YouTuber が来て、その視聴者が来て、旅慣れた人が来て、今はこだわりの団体旅行が増えているとのことだが、そうした人たちは数人乗りの車で来られているとのこと。

○戸所岩雄委員

令和7年度の目標値と実績の乖離がかなり大きくなっているが、乖離の傾向についてもう少し違う視点で分析をして、テーマを掲げる必要があるのではないかと。他のテーマパークと競合するというスタンスではなくて、彦根の誘客ビジョンとしては、「彦根ならではの」という魅力を売り出すということが今一つできていないのではないかと。戦略的に評価・検討する必要があるのではと感じた。

○事務局（観光交流課山本）

目標の指標は、増える一方の形で作られていて、コロナの影響をあまり加味されていなかったが、実際は令和5年まで影響があったと考えている。

○上田雄三郎会長

現在のご意見は、目標値と実績値の乖離が問題だというより、それをどのように分析しているかという観点でのことだと思う。次の全体評価というところで議論ができれば。

○上田雄三郎会長

満足度調査で、40代、70代が「一」になっているのは、データが取れていないということか。

○事務局（観光交流課山本）

そのとおり。対象者数が少なかったのだ。約20名くらいだった。

2. 評価について

○上田洋平委員

5年間を通して、質的な面でどういう風なものが成長したのか、ここからもう1歩先の方向性などを教えて欲しい。

○事務局（観光交流課堀部課長）

ハード整備としては博物館の改修を行った。また、文化施設を活用して地域の経済を循環させ、それを保存・活用の元とする文化観光の考え方を取り入れた。彦根城の世界遺産登録を踏まえ、今後も本計画の趣旨に則って進めていきたいと考えている。

○事務局（観光文化戦略部山岸部長）

本事業は博物館や観光施設のハード整備を中心にこれまでのソフト事業を併せておこなったもの。コロナ禍で実績の数値が減少し、現在に至るまで令和元年度よりも少ないままであることから、いろいろと事業をしたけれど、誘客部分は少し足りなかったと感じている。も

の自体はいいものができてきたと思うが、今後はソフト事業のアレンジをしながら、誘客の努力をしていきたい。

○上田洋平委員

これからソフト事業を充実していくための基盤としてのハードを整備したということだと思う。博物館で、この5年間でやりたいことはできたか。

○事務局（彦根城博物館渡辺副館長）

博物館が拠点になるところの魅力として一定目標は達成できたと感じている。本来、展示室全体のリニューアルをしたいところだったが、制約もあり、補助をうまく活用して改修できた。施設老朽化や収蔵庫不足も課題だが、なかなか国としてはメニューがない状況。ソフトでサービスを向上するところはかなりできた。能舞台の活用など行事に対するメニューでもう少し展開できるとよいと思っている。

○戸所岩雄委員

ハード整備と、ソフトを充実するという目的はわかるが、実際訪問する人は多様で、彦根の魅力は「本物の文化に触れること」。それに対してどう応えるか、どのように考えて他者に対して魅力を伝えていくのか。

○事務局（彦根城博物館渡辺副館長）

彦根城博物館の開館以来の基本的な考え方は、博物館が所蔵する本物のものが豊富にあってきちんと展示替えもできて、中身も変えつつ見ていただけたところが最大の特長であって、当館に来館していただきしっかり楽しんでいただくということ。最もうまくいったのは、展示ケースに低反射フィルムを貼ったこと。従来はガラス越しで見ているのがわかる状態だったが、ガラスがあることを忘れるくらい、作品そのものがクリアで存在感のある状態で、よく見ていただけるようになった。よくお客様がガラスにおでこをぶつけられるくらい。当館のコンセプトをより明確に推進しているのでこだわっていききたい。また、専門的な方以外にすそ野を広げるためにも、ミュージアムショップが効果的である。次にもう一つ我々がお客様に楽しんで欲しいことをどういう表現で伝えていくかが課題。本事業の中で、英語版の図録のデータを作成したが、来年度印刷製本する。これは、単に翻訳ではなく、日本文化に造詣の深いネイティブのライターが書き下ろす形で作成するので、外国人に彦根の魅力を伝えるツールとして展開したい。

○戸所岩雄委員

今のお答えに、可能性と課題があると思う。評価の中で、市の厳しい財政状況で、能や狂言を実施できなかったとあるが、何とか実施してもらいたい。茶道体験教室もできれば専門の方に携わっていただいて、何とか工夫をして実施してもらいたい。

○上田健一郎委員

全体的に見ると、計画前半はやはりコロナの影響を受けたが、ハード面はある程度充実できたので評価できる。本市には茶の湯条例があるので、まだまだ活用できるのではないかな。観光というと集客が重要。SNSなど情報発信をされていると思うが、Webマーケティングなど集客増について重点的に力を入れていただきたい。

○事務局（彦根城博物館渡辺副館長）

情報発信を充実していくことと、口コミを増やすことを考えている。体験的な要素を、ちょっとしたことでもその神髄に触れられたような、そのことによって日頃の自分とは違うこ

とを感じて、それが心に残るという、彦根らしい地に足のついたことに取り組んでいきたい。いかに継続してやっていくかが課題。

○安居庄二委員

民間活力を活用されたいと思う。そうした方向性を打ち出して、一緒になってやっていけたら。

○事務局（観光交流課堀部課長）

文化観光のせっかくの趣旨を今後も進めていきたい。

○上田健一郎委員

さきほどガラスがあることを忘れておでこをぶつけたというエピソードがあったが、こうしたことを SNS などで発信したら、よりお客さんが 1 回行ってみようとなるのでは。

○上田洋平委員

現在いろいろなものを見ると「リアル」と「リアリティー」の境目が無くなっていると感じている。人はリアルよりリアリティーを好むのではないかと思うくらい、あたかもリアルに見えるフィクションが好まれている。博物館は、リアリティーをもって歴史の真実を伝える施設と思っている。いわゆるテーマパーク化するのと歴史の真実を伝えるは異なる。不自然なものを取り除き、没入できるような環境を整えているということは、その方向で進めておられると思う。いま、初めて知ったので、ぜひこれをステップにして進めていって欲しい。

○戸所岩雄委員

今の問題は難しいが、20 年、30 年前だったら、歴史的町並みを復元した際に「これは映画村みたいだ」という評価はマイナスの表現だったが、最近ではプラスの評価になっている。彦根のアイデンティティとしては、映画村みたいではなく、いい意味で次の歴史を作るホンモノが生まれ、育っていくようなまちであってほしい。

○上田雄三郎会長

データをしっかりとっていろんな議論を進めていくことが重要だと思う。その一環として、ハードを改修したのは大変すばらしいこと。実際お客様の声として、何かデータは取っているか。エビデンスがちゃんとあってそれに基づいて取り組んでいるというのであれば、説得力も出てくるのでは。先ほどのショップの売り上げが 3.6 倍になったと言われたが、他に比べてどうなのか、比較するとみなさんの取組がより素晴らしい見せ方ができる。良い取組みをされているのでより多くの人に伝わるのではないかと思う。また、ターゲットをどう絞るのかということもあるかもしれないが、5 年間いろんなかたちで活動されたので、次の 5 年間については、各委員からのご意見を踏まえ、新たな姿を作ってもらいたい。彦根をどのように見せるのか、彦根の価値は何なのかなどを含めて、文化の薫るまちをいかに観光面で発展させるかも重要になると思う。